

## 年度末報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 4 月 9 日
- 事業名 : 食と職をつなげる高校生起業塾
- 資金分配団体 : 特定非営利活動法人北海道 NPO ファンド
- 実行団体 : 特定非営利活動法人のこたべ

### ① 実績値

#### 【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
No1 「生産者の営み体験商品の造成」: ~18歳（高校生）が生産者とのパートナーシップを通じて生産者と課題を共有し、沸々とイメージしたものを商品化してゆく。	生産者と協働しながら営み体験商品を開発した数 生産者の元へ訪れた高校生と大学生の数	2020年度 1 商品 関わった高校生 10 人	2022年 3 月	2020年度 6 商品の開発 関わった高校生や大学生、合計 21 名	1
No2 「販売イベント&ワークショップ」: 体験商品及び生産物	生産者及び店舗との連携で行う販売イベ	2020年度 1 事業 参加者 10 人	2022年 3 月	2020年度 2 事業 合計参加者 10 名	2

の販売促進イベント&料理ワークショップ等の企画・運営を通じて、～18歳（高校生）のアントレプレナーシップの下地を涵養する。	ントの開催数と参加者数 体験商品のプロモーションに繋がるワークショップの開催数と参加者数				
No3「食と職をつなげる高校生起業塾」：体験商品の造成過程やプロモーションの過程を基に動画コンテンツ教材を製作して、その教材を元にしたセミナーを実施する。	高校生起業塾の開催数と参加者数 企業の研修担当者及び学校の進路担当者等への動画教材配布数	2020年度1事業 参加者5人	2022年3月	2020年度1事業 参加者12名	1
No.4「親子を対象とした畑からマルシェ事業」：～15歳の子どもとその親が地域の食を職に繋げることの意義を体験から実感する。	親子農業体験数 料理ワークショップ &販売体験イベント数	2020年度1事業 親子3組	2022年3月	2020年度1事業 親子8組	2
No.5「子どもお仕事体験教室」：～15歳（幼・保・小・中学生）がお仕事体験を通じて地域の起業家（生産者）のかっこよさ（魅力）に気づき、ワクワクしながら働く。	子どもお仕事体験教室の開催数と参加者数	2020年度1事業 参加者20人	2022年3月	2020年度4事業 参加者合計40名程度	1

--	--	--	--	--	--

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
3. 活動に関する報告
<p>今期の活動に関しましては、主に前期と後期で二つの事業を行いました。</p> <p>前期は活動としての実績が0であった状態、かつ新型コロナウイルスの影響もあり、まずは「道南食育チカラ体験」と題した「食と職をつなげる高校生起業塾」に含まれる単発イベントを6回に渡り開催致しました。この活動では地元の学生（大学生、高校生を含む）、地元の生産者、地元商業施設、道外の他団体などとも協働し、地元小学生に向けた農業体験を起点としての販売体験、オンライン料理教室などを含んだキャリア教育事業として機能致しました。販売体験では小学生自らが収穫した野菜に利益を乗せて値付けをし、その値段で販売し、利益は小学生にその場で分配することで、将来的な起業において最も重要な原体験を提供致しました。</p> <p>6回に渡る活動、都度開催した小規模イベント等を通して、活動地域における協働団体や住民、教育機関との関係を築くことを達成したため、後期は「道南わくわく探究塾」と題した「食と職をつなげる高校生起業塾」に含まれる活動を行いました。この活動ではより地域の企業、団体、個人との連携を強め、商品開発・自然体験プログラム作成・まちづくり・メディアの4コースに分かれ、それぞれのコースにて地域の大学生がメンターとなりながら、11名の高校生が各分野のプロフェッショナルから実践とともに0から1をつくるプロセスを学んでいきました。</p>

年間の活動を通して小学生～大学生までを含む地元の若者に対し、「地元への愛着」と「主体性」を育んでもらう機会を創出して参りました。上記の事柄は、地元で活躍する学校外の大人たちの出会いとプログラムの中に含まれる0から1を作り出すプロセスの体験を通して身についていったものでした。

後期の道南わくわく探究塾終了後に参加者に対して行ったアンケートでは、「地元は何にも無いところだとずっと思っていたけど、やれることは多くあるし逆にここにしか無いものがあるということに気づいた」や「地元は都会より物足りないと思いがちだったが、函館ならではの良い所がたくさんあったり、地元だからできることもあるんだと思うようになった」などといった感想が挙がりました。

#### 6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

当初より対面での活動を主体として考えてきた本事業ですが、とりわけオミクロン株が猛威を振るった影響により、オンラインを主体とした活動に切り替えを行いました。ミーティングやデスクワーク等は全てビデオ会議やワーキング SNS (Chatwork, Slack など) を利用したりモート業務で行い、交流会やイベントなどといった必要不可欠な場面のみ対面にて業務を行いました。また、2月に行った収穫体験イベントでは参加者はパソコンを通じたオンラインでの参加で、運営メンバーが農家に赴き配信するような形でイベントを開催し、後日野菜の収穫キットを各家庭に届けて収穫体験を自宅で行っていただくといったような工夫も行いました。参加者だけでなく運営メンバーも若い層が多いため、最新のサービスを存分に利用する形でオンラインでの活動の可能性を最大限まで広げてきました。

### ③広報に関する報告

シンボルマークの使用状況
<input checked="" type="checkbox"/> 自団体のウェブサイトに表示している <input checked="" type="checkbox"/> 広報制作物に表示している <input checked="" type="checkbox"/> 報告書に表示している <input checked="" type="checkbox"/> イベント実施時に表示している <input type="checkbox"/> その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） 北海道新聞掲載 10 回以上 函館新聞掲載 10 回以上 2.広報制作物等 活動内容紹介動画の作成 3.報告書等  4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 3月5日（土）プログラム参加高校生を主体とした活動内容の成果報告会開催

### ④規程類の整備に関する報告

1. 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。
<input checked="" type="checkbox"/> 完了 <input type="checkbox"/> 整備中
2. 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
<input type="checkbox"/> 全て公開した <input type="checkbox"/> 一部未公開 <input checked="" type="checkbox"/> 未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日： 現在 Web サイト最終調整中のため。公開予定日は 4 月末

3. 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。

はい いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由：

#### ⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。

はい いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由：

2. 内部通報制度は整備されていますか。

はい いいえ

→「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：内部に窓口を設置 外部に窓口を設置 JANPIAの窓口を利用

3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。

はい いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由：

4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか

はい いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由：

5. コンプライアンス委員会は定期的に行われていますか。

はい いいえ

→「いいえ」を選択した場合の理由：

6. 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）

内部監査を実施 外部監査を実施 実施する予定がない

→「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

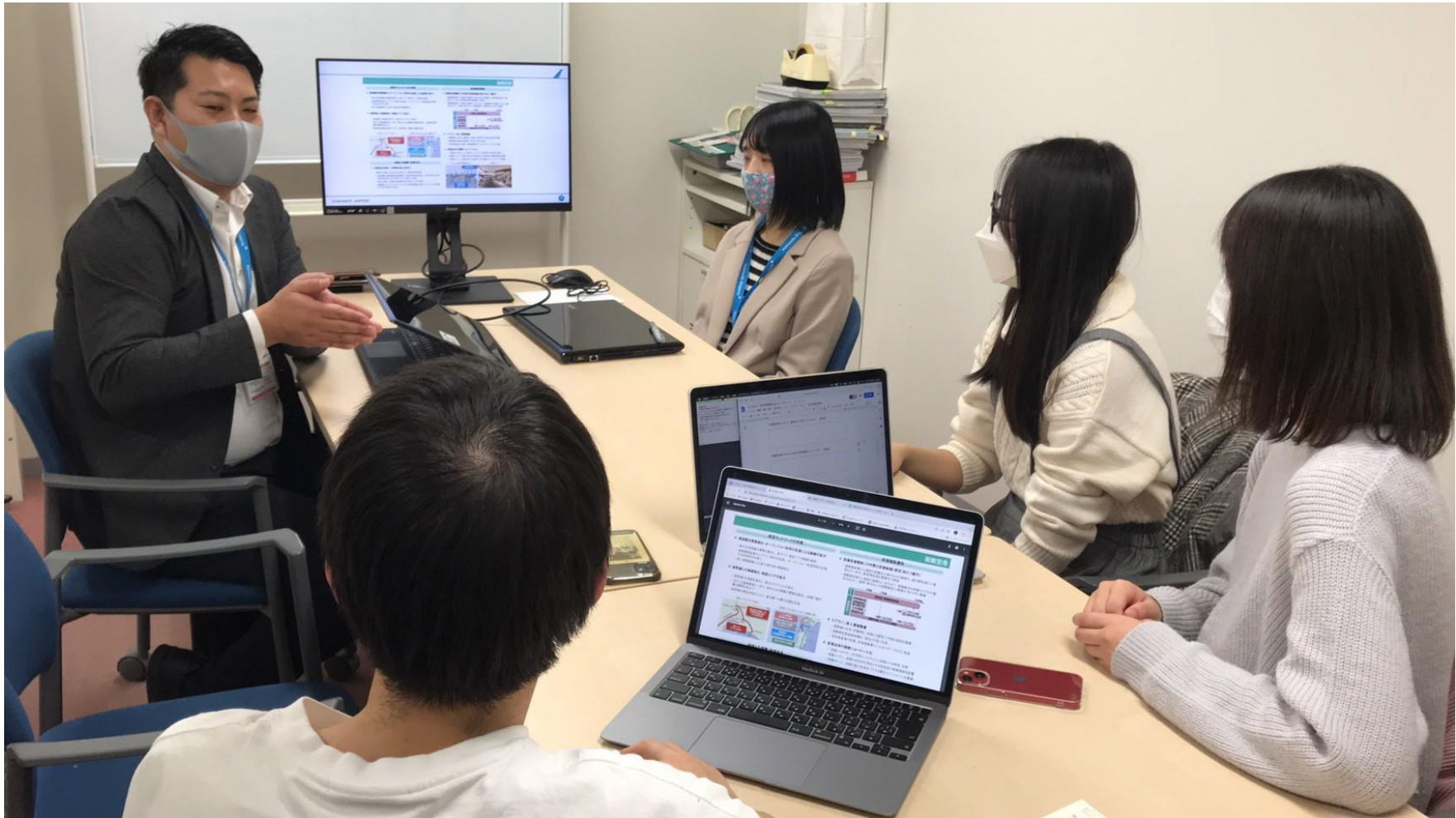
## 添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3~4枚程度）









試作会



思ったよりも…

一からつくるって面白い！

